

回文の
おもしろさ

もぐりな
みかきか
みなりぐも

も

first message from ISOS



Minami



も

潜り 波搔き 雷雲

潜っては海底の砂浜を眺め、顔を出しては波を搔く。水平線上の雷雲は、昼間は真っ白で青空に冴えているが、日が傾くにつれ、次第に黒ずんで行く。子どもたちは海に夢中で、その変化に気づかない。やがて雷が鳴り、大粒の雨が砂浜に穴を開け始める。用意のいい親は、既に海の家に家族みんなが雨宿りできるスペースを確保し、駆け込んで来る子どもをバスタオルでキャッチする。前線で思い切り遊ぶ子どもの後方には、その子のリスクをマネジメントしてくれる親がいる。

仕事でも、社長や上司といった直接利害関係者とは別個に、ある側面のマネジメントを担当する「里親」が存在してくれるとうれしい。ISOマネジメントシステムの世界でも、思い切り遊びたい人々がいる。そういう人々を前線で遊ばせながら、自分も遊び、時々後方に引いてマネジメントをするという仕組みを作ったのが、営利目的とは一切関係がないメーリングリスト「いそいそフォーラム」(<http://www2s.biglobe.ne.jp/~iso/index.htm>)の運営責任者・木村忠道さんである。この人はいわば ISO Kids の「里親」だ。「ISO上の話し相手が欲しい」という個人的理由でこのメーリングリストを立ち上げたというから、木村さんも最初はISOで遊びたい一人の子どもだったのだろう。しかし、設立から5年、本人が意図していたかどうかはわからないが、今では1,300人の「里子」を持つ家族的「里親」になってしまった。

親という役割自体に営利目的はない。同様に、「里親」という役割も「いそいそフォーラム」のように非営利目的で行うのが本道なのだと思う。